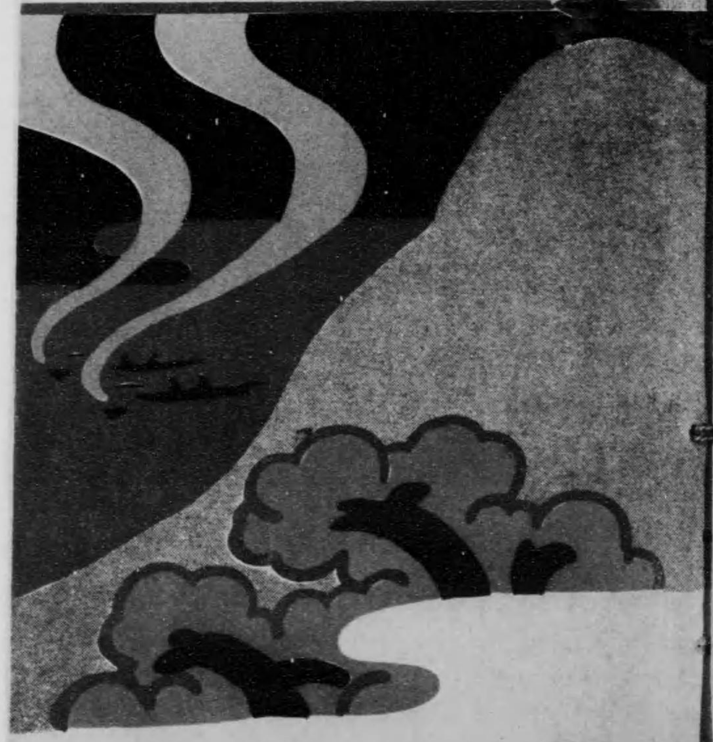
設

7617
11

岐阜市案内



岐阜市保勝會 小川利

11-494

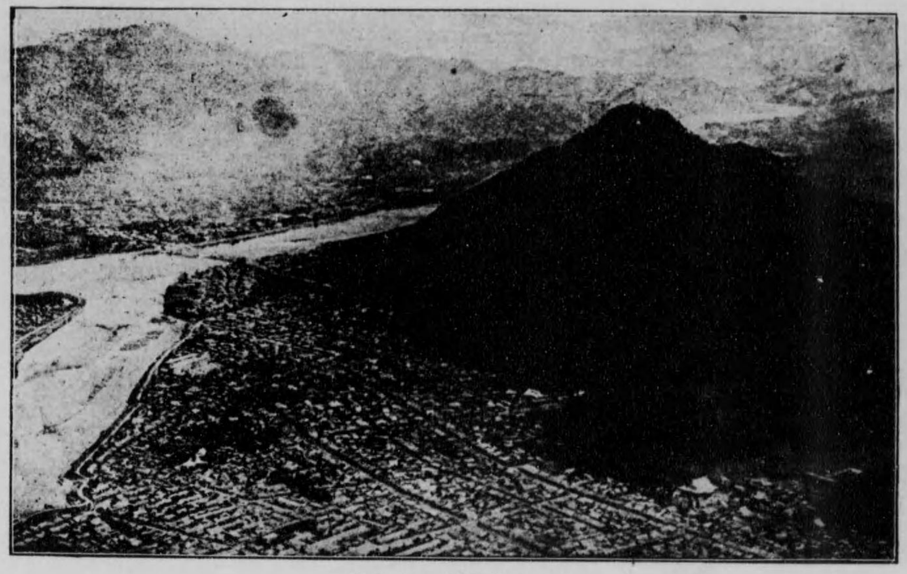
（武布下天）印の長信田織

（恕忠）印の康家川德

（詳不字文）印の吉秀臣豐

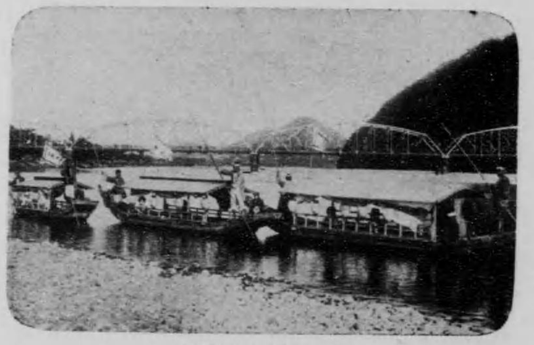
大正
10 9.29
内交

高く聳ゆるは金華山にして其の麓を流ゝるは長良川なり、
又川に架せるは長良橋にして其の對岸は長良村とす。



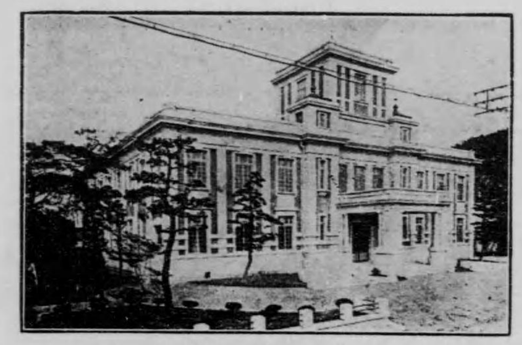
上空より見たる岐阜市

長良川鵜飼の光景



長良橋下の遊船

岐阜藝妓の鵜飼踊



岐阜市役所

金華山巓の模擬城

同上古城址碑

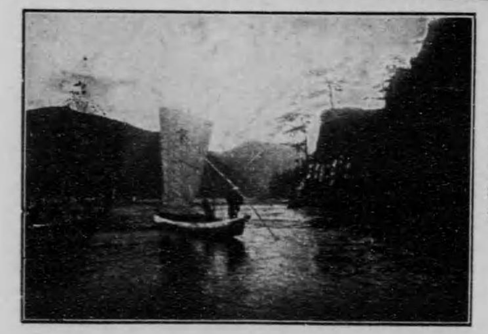
岐阜公園内板垣伯の銅像

岐阜公園内千疊敷

岐阜公園の萩

長良村崇福寺

織田信長の廟



長良川の清流

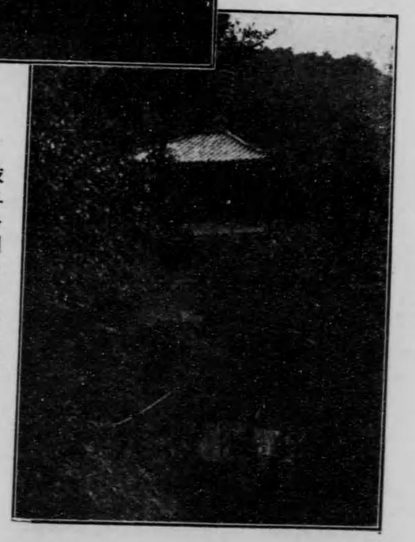
長良橋

岐阜公園グラウンド

板垣伯遭難記念碑

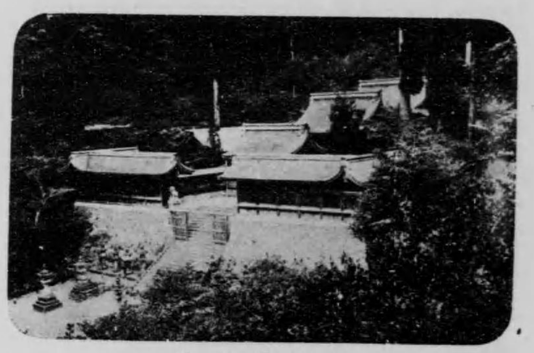
萬松館の庭園

丸山金毘羅神社



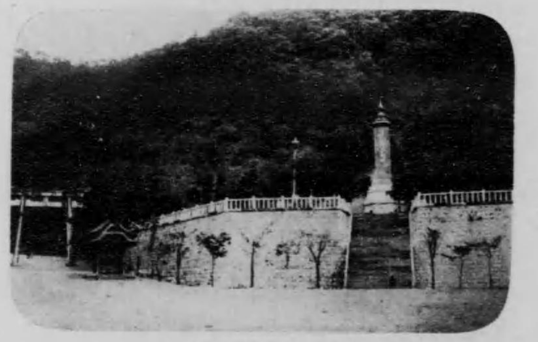
岐阜公園の三重の塔

岐阜公園の泉水



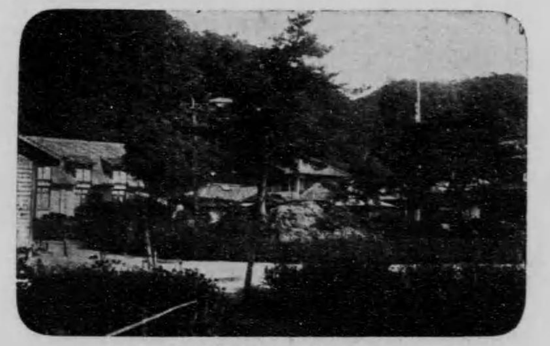
伊奈波神社

伊奈波神社社頭の櫻

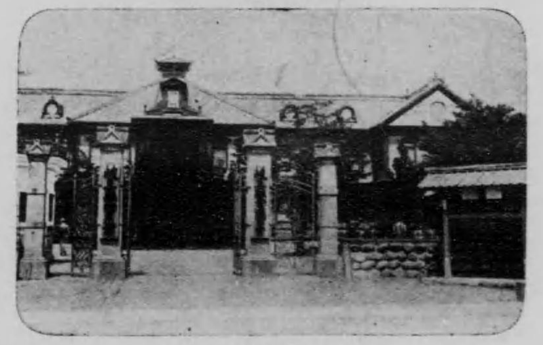


三十七八年戰役記念碑

大佛の遠望

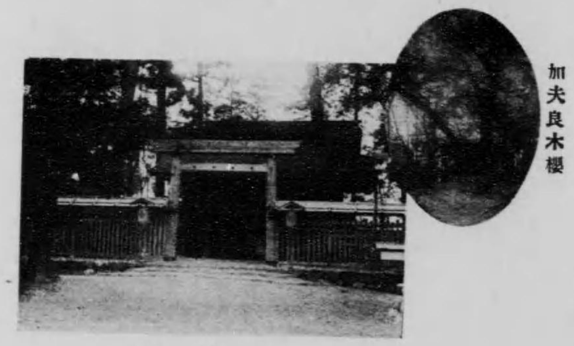


名和昆蟲研究所全景



岐阜縣會議事堂と物産館

彌八地藏

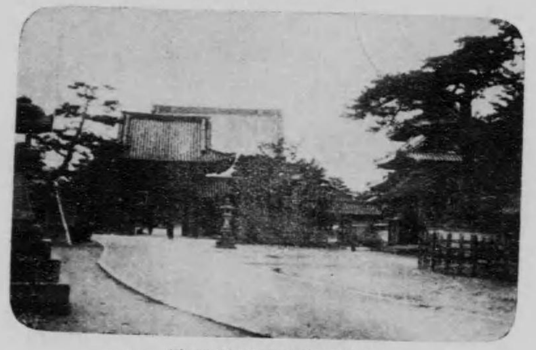


加夫良木櫻

金神社

篠ヶ谷梅林

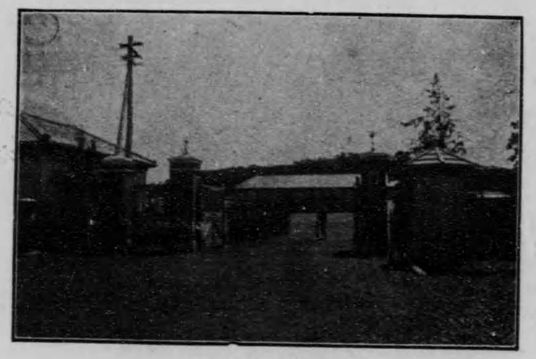
大谷派本願寺岐阜別院（東御坊）



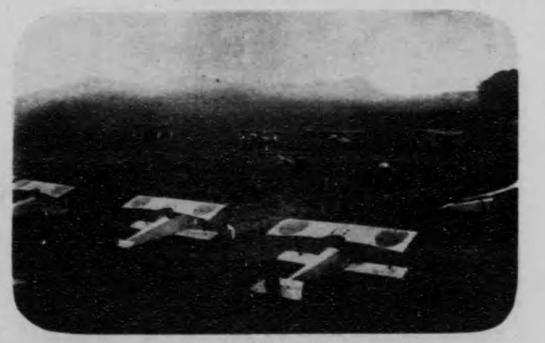
本派本願寺岐阜別院（西御坊）

美江寺觀音

瑞龍寺



歩兵第六十八聯隊



各務原飛行場

岐阜市案内目次

○岐阜舊蹟

岐阜城址……(六)
長良川……(八)
長良橋……(九)
崇福寺……(一〇)
岐阜公園……(一〇)
手洗池……(一一)
巨蛇ヶ藤……(一二)
十八樓の蕉翁遺跡……(一二)
名和昆蟲研究所……(一三)
名木花の木……(一三)
大佛殿……(一三)
法華寺……(一四)
伊奈波神社……(一四)
善光寺……(一五)
權現山……(一五)
東別院……(一五)
西別院……(一五)
岐阜縣物產館……(一六)
二度櫻……(一六)
美江寺觀音……(一六)
彌八地藏……(一七)
圓德寺……(一七)
金神社……(一七)

一の榎……（一七）
篠ケ谿梅林……（一八）
瑞龍寺……（一八）
岐阜聯隊……（一九）
各務原飛行場……（一九）
金華山……（二〇）
○特産品
岐阜縮緬……（二六）
岐阜提燈……（二六）
岐阜行燈……（二七）
岐阜團扇……（二八）
雨傘……（二八）
柳行季……（二八）
絹紬……（二八）
菓子……（二九）
鮎條鵬……（二九）
鮎粕漬……（三〇）
守口漬……（三〇）
○長良川の鵜飼
鮎と其の料理……（四〇）
○官衙公署其の他……（四五）
○重なる銀行會社工場……（四八）
○新聞雜誌……（五一）
○重なる旅館及料理屋……（五二）
○劇場及寄席……（五二）

岐阜支店營業所

資本金　貳千萬圓
積立金　四百八拾五萬圓

株式會社
名古屋銀行

岐阜市神田町
岐阜支店
電話長一一〇番
一二四番
振替貯金
名古屋五〇〇五番

岐阜市西野町
岐阜今泉支店
電話一二六番

羽島郡笠松町
笠松支店
電話國三番
振替貯金
名古屋四九三六番

○銀行業務一般確實簡便ニ御取扱可申上候間頻繁御利用被下度候

岐阜市案内

◎岐阜市

濃尾平野の北に方り一帯の翠巒波狀をなして蜿々西に盡きんとするところ、秀然として一峯の雲表に聳ゆるもの之を金華山（別稱稻葉山）とす、山の北に沿うて潺湲たる清流帶の如く東北より西南に走るもの之を長良川とす、此山の麓、此河の畔、般賑なる一市街あり、岐阜市乃ち之れなり、舊き俚謠に『岐阜はよいとこ金華山の麓、小田の蛙（長良川邊に產する河鹿のこと）が寢て聽ける』の一首は蓋し能く岐阜市が山紫水明の勝地なるを語るものにして其の清麗閑雅なる風光が頗る舊都の山河に酷似せるより、古人の評して小京都と名づけたる最も適切なるを思はしむ、詩人森春濤翁の詩に曰く

明治三十一年創立

無限責任

野々村銀行

電話 長一四八〇四番

本店 岐阜市米屋町

第一支店 本巢郡西郷村

第二支店 稻葉郡木田村

月下聽河鹿

松火杳然烏鬼ノ舟。金華山影淺灘ノ流。月前啼徹ゞ錦輿子。清夏凉ニ於鳥水秋ゝ。

岐阜の名稱　此地史實に見えたるは白河帝の承暦三年源頼光の孫美濃守國房稻葉山に城きたる時代よりにして、當時は井ノ口と稱する寂々たる一僻地に過ぎざりしが如し、之れより年を經ること四百八十五年正親町帝の永祿七年八月織田信長尾州清洲より此の地に移りて地名を岐阜と改めたりといふ而して岐阜なる名稱は支那に於ける周の岐山の故事により「岐山曲阜」の一字つゝを取りたるなりとも云ひ、一説には古來岐府、岐陽などゝ書し、明應永正の頃の舊記にも岐阜と見えたれば信長の改めしにあらずとも稱せらる。

岐阜市の沿革（維新前に關するものは別項「金華山」の下に悉しければ此處には省く）　明治四年岐阜縣を置かるゝや、廳舍を今泉村に開かれしが、明治二十二年岐阜町は今泉、富茂登、小熊、稻束の四ヶ村と上加納村の一部とを併せて厚見郡の所屬を脱して新に市制を布くに及び、漸次年を逐うて人家稠密し街區大いに整ひ、今や中部日本に於ける屈指の都市として驚異すべきほど急速なる發展を見るに至れり。

岐阜市の今昔　市制施行當時（明治二十二年）岐阜市の戸數は僅かに五千百、人口二萬五千七百に過ぎざりき、殊に間もなく明治二十四年濃尾の大震災に遭遇して全市家屋の大半倒壞し、加ふるに祝融猛威を逞うして、目貫きの市街たる元岐阜町の過半を烏有に歸せしめたるは今猶世人の記憶に新なる所にして、其の慘憺荒凉筆舌のよく盡す所にあらず、然れども此の災厄は却つて市民の一大奮起を促す因となり、爾來營々として之が恢復に努め、或は街區の整頓に、或は輪廓の擴張に拮据經營すること多年今や戸數一萬四千、人口六萬三千を包擁し、岐阜縣の首腦地たり中樞地として、將た又地方物資の集散地として、燦然たる文化と新時代の事業とを競ふの隆運を形成するに至れり。

而して岐阜市が今日斯くの如く文明都市としての內容及外觀に大革新を行ふに至りたる所以は交通機關の完備、卽ち美濃電氣軌道株式會社の設立に負ふところ偉大なりとす、同會社は明治四十四年舊岐阜驛より長良橋に至る里餘の市街を縱貫して電氣軌道を敷設し、之を市の脊髓として更に市外に延長し、西は關、美濃の兩町を結び南は笠松町と聯絡したるが、又大正二年には長良輕便鐵道株式會社（大正九年十月美濃電氣軌道株式會社に合併せり）起りて長良村より高富町に達し、更に大正三年には岐北輕便鐵道株式會社の創立

せらるゝありて忠節橋畔より北方町に延び、何れも岐阜市に接續して樞要なる交通動脈となり、市對郡部との距離を著しく短縮せしめたる結果は、期せずして市區の改正或は大道路の開通となり、急速なる市の膨張を促するに至れり、是より先き明治四十一年歩兵第六十八聯隊（稻葉郡北長森村ニ在リ）の設置せられたる一事は本市の發展史上特筆すべき事項たるや論を俟たざる所なり。

右の外大正二年には岐阜驛の移轉改築を斷行せられて市の表玄關の整備大に成ると共に街區も著しく擴大せられたり、而して現在に於ける岐阜驛頭の外觀は未だ十分整はずと雖も、其の呑吐する貨客は中濃及び飛驒の一市十數郡に及び、近くは飛驒縱貫鐵道高山線（大正九年十一月一日岐阜各務ヶ原間八哩二分開通）の全通するあらんか、表裏日本を聯絡すべき關門に該り、自ら求めずして更に大々的發展を招來すべく、又最近には航空第一、第二兩大隊（稻葉郡各務ヶ原に在り）の設置を見たる外、高等農業學校（稻葉郡那加村に建設大正十二年完成の豫定）の新設せらるゝあり、加之本市道路の二大幹線として多年の懸案たりし西廻線（停車場より忠節橋に至る延長千二百十間幅員八間の道路にして大正十二年度完成の豫定）の歩擴工事竣成して、之に電鐵の循環運轉を見るに至らんか、更央連結線（神宝町延長三百七十一間幅員八間にして大正十二年度完成の豫定）の歩擴工事竣成して、之に電鐵の循環運轉を見るに至らんか、更に面目一新して岐阜市の品位體裁を著しく向上せしむるや期して俟つべきなり。

飜つて本市の地位を產業上より觀察せんとせば先づ本市般賑の背景を成す郡部の產業を併せ說かざるべからず、蓋し我岐阜縣の產業に至りては、世既に定評あり、今本市を圍繞せる稻葉、羽島、本巢、山縣、武儀の五郡に於ける大正八年の收繭高を見るに、總額實に十四萬石、此の價額壹千五百九拾貳萬圓に及べり、而して又本市及び稻葉、羽島兩郡の大正八年織物年產額は貳千百九拾五萬圓、武儀、山縣兩郡の大正八年和紙年產額は五百拾壹萬圓、本市及び稻葉郡の大正八年兩傘年產額は參百八拾貳萬圓、其他一市五郡の大正八年中重なる工產品年產額は參千五百餘萬圓にして、斯くの如く本市を中心とせる地方產業の狀況は洵に、全國に冠絕するもの尠なからざるを知るべし、殊に本縣は現代工業の原動力たる水力電氣の供給最も豐富なるが上之が設備に於て他府縣に比し便利多き爲め、各種の工業大に興り、大工場相續いて建設せられつゝあるを見る、實に麟勃として維れ日に新たなるは、我岐阜市の現勢なりとす。

◎名勝舊蹟（遊覽に便する爲め市外のもの二三を挿入することゝせり）

岐阜城址　海拔一千百二十七尺の山骨青苔に包まれて綠樹鬱蒼たる金華山の絕巔に在り、往昔織田信長の居城たりし遺跡にして風淋雨打茲に三百有餘年、古壘殘礎今猶ほ存して古英雄當年の壯圖を語るに似たり、麓より城址に至るに二道あり、一は昔時城の大手口なりし今の梶川町より藤右衞門洞を經て、達目洞槻谷に至るものにして其の坂路屈曲甚だしく之を七曲坂と稱す、一は公園よりするものにして道路平坦婦女子も容易に登るを得べく、然も長良川の清流を樹間に指呼して眺望に富み、龜の橋、龜の石、木兎石、神買の松等奇勝點在して足の勞るゝを知らず、山巔には天守臺の石垣、一の門、二の門、太鼓櫓、千疊敷の臺、厩、調馬場、長屋等の遺跡あり。

石門　森春濤

老樹當レ前似レ閉レ關。夕陽猶在二翠微間一。石門曾是鑑門限。一二任晩雲二隨意還。

巖廊

鳴禽得レ意上二空廊一。屧響不レ來苔色荒。畜二妓後室一歌舞散。巖花猶學繡衣裳。

岐阜市保勝會にては明治四十三年五月舊城址に模擬天守閣を築きて往時を彷彿せしめ、且つ傍に高さ三十餘尺の鐵柱を建て題して古城址と云ふ、此の邊又賣店を設けて登山者の便を計るなど設備整頓せり、若し一天纖雲無く晴れ渡りたる日、筇を曳いて登山し天守閣に登臨して眺望せんか、西には伊吹の高峯雲表に聳え、北には遠く白山御嶽の山脈蜿蜒として近く惠那の群峯を率ゆ、木曾、長良、揖斐の三大川は之れ銀河白帶廣漠なる平原の間を奔流して遂に伊勢灣に入る、眼を轉ずれば大垣城と犬山城とは小さく直前に指呼すべく、遙に煙霞糢糊たる裡に名古屋城頭金鯱の輝くを認むべし、尙我國空界の發祥地各務ヶ原飛行場は目睫の間に見え、東海道線と高山線の汽車は春、繚亂の花を撒き散らし、秋萬頃の黃金の波を漂はす濃尾の平野を掠めて迢々たり。

斯かる環境を有せる岐阜市は卽ち眼下の山麓に展開して屋宇櫛比し瓦甍は魚鱗の如く、街頭の電車は縱橫に走りて宛ら市の繁榮を誇るに似たり、されば山河の景勝併せ得て滿眸總て詩料ならざるなきも奈何せむ吾人能く其の實景を描いて廣く之れを江湖に紹介するの才筆なきを、因みに金華山に棲息繁

茂せる動植物中には學術上の研究資料として他に索め難きもの尠なからず所謂天然記念物の寶庫として驚異すべき發表を見るも蓋し遠きにあらざるべし。（金華山に關する史實は別項「金華山」の記に悉し）

長良川　往時稻葉川又藍見川とも云へり、源を郡上郡大日ヶ岳に發し吉田、板取、津保、武藝の諸川を合せて南流し來り、金華山の裳を麓して泓澄、春は青嶂の鏡となり、秋は紅錦の波を漂はす、若し夫れ盛夏遊舫を浮べて凉を納れんか、清風習々として忽ち苦熱を忘るべし、天下の奇觀鵜飼は此のあたり最も良く、鵜の活動、船の操縱、篝火の光燄は、山と水との翠碧に映じて凉味萬斛、此の間の實景は未だ曾て文章繪畫の克く盡しゝものあるを聞かず、此れ所謂神秘の妙境なるを以てなり。

鵜飼船今はほかには長良川　むかしを見るかゝり火の影　本居宣長

忘れしな長良の川の鵜飼船　くたすかゝりの夜のけしきは　岩倉具選

かざをれるぼし　腰みのつけて　きよきこゝろの　山田顯義

長良川　ながれつきせぬ　いく千代かけて　君にさゝげむ

あゆのうを　ふなばたゝいて　ほつ　ほつ。

而して遊覽船は、之を長良橋の南詰なる岐阜遊船株式會社に命ずれば會社は豫て輕紗の幔幕と岐阜提灯を裝へる大小數十の畫舫を準備せるを以て各人數に準じ最も簡易至便に遊覽者の需めに應ず（鵜飼の來歷は別項「長良川の鵜飼」の記事に悉し）

長良橋　岐阜驛より電車にて三十分、岐阜市と長良村とを境界し、市郡交通の要衝にあたれり、延長百三十五間、大正二年九月起工し、拾七萬壹千餘圓の巨費を投じて大正四年五月竣工せるプラットトラヽ式大鐵橋にして、岐阜市の大詰を飾るに足るべき一偉觀とす、元來此の處は明治七年初めて船橋を架したるが後ち木橋となり更に現在の鐵橋を架すに至れるもの、亦之れ本市文明開發の表象といふべし。

橋上に立ちて觀望すれば金華の翠巒は長良の清流に倒影して浮べるが如く、櫓聲欸乃に和して橋下を去來す、若し夫れ鵜飼季節の夜景に至りては、紅燈搖めく數十の遊船、兩岸一帶の人の波烟花飛び絃歌相和して鵜船の來るを待つ、やがて篝火天を焦すが如く舷を叩く音、鵜を勵ます聲、勇ましき數艘の鵜船、彼此相應じて漕ぎ下し來るを見るや、四邊一齊に鳴りを沈めて之を迎へ、鵜匠の手綱捌き奇

らしく鵜の巧みに鮎を漁する奇觀を嘆賞する光景なゞ　滿眸亦歎樂境ならざるはなし。

崇福寺　長良橋より約三町長良村にあり、文明元年の草創にして開基を美濃守土岐成頼及び齋藤左衛門長廣とし、禪宗臨濟宗派なり、傳說に依れば本堂の天井は元岐阜城本丸の床板を移し其の儘用ひたるもなりとかにして「崇福寺の血天井」と云ふ、境内に信長公父子の墓あり、其の他織田氏を語る古文書及び器物の藏せらるゝもの甚だ多し、明治維新後公の偉勳を追慕して廟を其の墓畔に造營せられたり。

岐阜公園　明治二十一年の開園にして金華山麓にあり、往時城主居館の跡たる今の千疊敷を包擁して年を閲する幾百年、斧鉞を入れざる金華山御料林の一部十六町九反餘歩の大自然境を併せて、廣濶なる園域を有す、園の中央正面に英姿颯爽四邊を拂つて屹立するは、之れ維新の元勳板垣伯の銅像なり、此の地に於ける伯の遭難史實は世人既に之れを知れり、今此の地に偉人の風丰を欽仰して「板垣死すとも自由は死せず」と傲語せる當年の壯烈なる意氣を偲ぶとき、誰か亦伯が我憲政創始の偉勳を追懷せざる者あらんや、されば岐阜公園は一面に於て我國憲政發祥の地とも言ふべきなり。

又園内三重の塔は丹碧相照し頗る風致に富めるものにして、山腹に懸り夕陽に映ずる處幽寂閑雅なる別天地を成す、轉じて北端丸山に登躋せんか、眺望更に一段の興趣を加へん、附屬大運動場は常に健兒跳躍の影絶ゆることなし、近くは園内佳景の地を相して招魂社を設立し、以て忠勇義烈なる縣下將士の功績を不朽に傳へんとする計畫あり、其の他春陽の節には梅花先づ東風に笑ひ、朝日に匂ふ櫻花は山崖に溪間に白雲の靉くが如く、秋冷の候には黄花松柏の間に參差として錦を飾り、千草八千草繚亂と咲き競ひて蟲聲の唧々たる、詩興轉た頻りなり、又盛夏三伏の候には綠樹蔚々天を蔽ひ、殆んど滿地に日光を漏さず爽凉自ら人に迫るの思ひあり、細けれども一條の溪流は苔蒸す岩に碎けて白練の瀑となり優に暑を忘るに足る、此の處芭蕉翁吊古の句碑あり

城址や古井の清水まづとはむ。

手洗池　公園の北にあり、舊記に因れば昔は深淵にして『みたらし』と稱す、伊奈波神社の丸山にありし頃、社領地なりしと云ふ。

洗手池

森春濤

古祠南ニ徒ヲ斷崖隤。留ニ得靈池一鑑開。無ニ復賽人ノ來洗ヒ手。漁翁濯レ足晚歸來。

巨蛇ケ藤　手洗池の北にあり、幹の周圍八尺にあまる一大藤樹なり、本多林學博士登山のとき之れを發見して日本一の巨藤なりと激賞し、其狀恰も巨蛇の蜿蜒たるに似たるより巨蛇ケ藤と命名せられたり。

蕉翁遺蹟　俳聖芭蕉翁嘗て長良川に臨みたる水樓に住み、西湖の十勝と瀟湘の八景とを併せ稱して十八樓と名づけたりと傳ふ、遺跡今は旅館となれるも庭前に翁の句碑あり、高さ約三尺

このあたり目に見ゆるもの皆涼し。

財團法人名和昆蟲研究所　岐阜公園の西南端に位し大宮町にあり、明治二十九年四月の創立に係るものにして明治四十四年二月財團法人に改め以て現在に至れり、而して名和昆蟲研究所を知らんと欲せば先づ其の創設者にして現所長たる昆蟲翁名和靖氏を知らざるべからず、乃ち先年翁に下賜せられる藍綬褒章の記を一讀せば直ちに翁の功績と本研究所の價値とを了解し得らるべし。

資性堅忍夙ニ農學ヲ修メ尋テ動物學ヲ練修シ專ラ力ヲ昆蟲學ニ竭シ害蟲驅除益蟲保護ノ法ヲ究メ之ヲ農業及教育上ニ應用普及スルヲ以テ己レカ任トナシ常ニ山野ヲ跋渉シ艱苦備嘗蟲類ヲ採集スルコト一百三十餘萬頭標本ニ製作セシモノ凡ソ八十餘萬頭之ヲ內外博覽會ニ出陳シ若クハ諸學校各種ノ團體ニ寄附シ或ハ各地ニ巡歷シテ農會其他ノ諸會ニ於テ講演スルコト六百餘回數々講習會ヲ開キテ多ク生徒ヲ教養シ月刊雜誌及害蟲ノ圖解ヲ發刊シ殺蟲器捕蟲器保護器ヲ按出シ若クハ害蟲標本保存筐ヲ改良スル等開示開導甚タ努メ裨益ヲ農家及教育家ニ與フルヿ鮮少ナラス尙ニ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナリトス依テ明治十四年十二月七日勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰ス

名木花の木　日本固有の植物たる花の木は天然記念物の一として特に保護を加へられつゝあるが、岐阜市松ケ枝町藤谷綱三氏方（金華山登山口）の庭內にある花の木は、目通り周圍五尺四寸、高さ五丈餘、實に稀有の大樹にして植物學者の齊しく推賞する所なり。

大佛殿　金鳳山正法寺と號し、黃檗宗に屬して天和三年廣音和尙の草創なり、今の大佛殿は明和年間の創建にして堂內に毘盧遮那佛の高さ四丈五尺、顏一丈二尺、耳七尺、鼻の高さ一尺二寸の大座像

を安置せり、而して最も奇とするは全像籠細工にして一切經の古本を用ひて之を張り上げたることなり、胎内には更に慈覺大師の作と傳ふる藥師如來を安置せり。

法華寺　矢島町一丁目にあり、織田家の祈願所にして素と尾張の清洲にありしを永祿年中岐阜に移したるものなりと云ふ。

伊奈波神社　縣社にして祭神は稲葉國造祖彦多都彦命を主神とし、日葉酢媛命、五十瓊敷入彦命の三柱を奉祀し、毎年四月五日を祭日とす、境内は樹木鬱蒼として枝を交へ溪谷晝尚ほ暗し、社頭に巍然として聳ゆるは明治三十七八年戰役記念の忠魂碑なり、春は櫻花爛漫として夜は幾千の電燭を花間に點ず、滿目飽麗之れを伊奈波の夜櫻と稱し甚だ絶景なり、初夏は新緑梢に滴たる頃より殘月の光を浴びて杜鵑の鳴くを待つ風流の客もあり、斷崖の瀑布は盛夏涼風をとるに宜し、溪南溪北には旗亭あり、茶店あり以て憩ふべく、秋は滿山錦を飾り、冬の雪景は宛然畫ける南畫の如し

稲葉山觀櫻　森春濤

一春行樂雨晴初。才過此時渾不知。暖入晚櫻紅半吐。早櫻開到九分餘。

善光寺　伊奈波社前第一華表の側にあり、天正年中信長公信濃の善光寺如來を此の地に移し堂宇を建立せしが、後如來は信濃に奉還せしと云ひ現在は其の遺蹟なり、堂宇は近來の再建にして、毎月十七日俗にお十七夜と稱し、特に陰暦の七月十七日は近郷附近の老幼男女群集して頗る雜沓を極む。

權現山　金華山につゞきて市の東方に聳え氣象信號標の高く建てる山卽ち是れなり、頂上には東照宮と靈神を祀れり、信號標のある所には休憩所の設けありて展望に富み、四季登遊するもの甚だ多し日清戰役記念の時報鐘も亦此處に在りて、最近「時」の記念物として有名となれり。

東別院　淨土眞宗大谷派の別院にして俗に東御坊と云ひ、權現山下鶯谷にあり、慶長年間旗本坪内氏が新加納に建立せしを、後年今の地に移せしものなり、其の當時は堂宇頗る宏壯なりしが明治二十四年の大震災に際し祝融の災に遭ひたるは惜むべし、其の後復舊に鋭意し既に大本堂を再建せられたるあり、やがて昔日の面影を見るも遠きにあらざるべし。

西別院　淨土宗本願寺派の別院にして俗に西御坊と云ひ、西野町にあり、東別院と共に市内屈指の巨刹たり、境内宏濶堂屋壯麗を極む、明治十一年十月畏くも　先帝陛下御巡幸の砌り岐阜に御駐輦あ

らせらるゝや當院を以て御在所に充てさせられ、又明治三十二年　今上陛下東宮に御在せし時當市に行啓あり本院に御休泊あらせられたり。

岐阜縣物産館　岐阜縣廳前にあり、縣下の各種物産を陳列して一般の縱覽に供し、兼て委託販賣の勞を執り、一面各地の生産品を蒐集して斯業者の研究資料に供しつゝあり。

二度櫻　岐阜縣物産館構内にあり、山櫻の變種なりといふ、花の特質は花時未だ散らざるに際し雌蕊の出づべき位置より更に一花を抽出するを以て此の名あり、春陽四月滿開期に於ける美觀は他に比すべきものなく實に斯種の珍たるを失はず。大正十年四月理學博士三好學氏は親しく之を觀察せられ大に奇として爾來研究の歩を進められつゝあり。

美江寺觀音　美江寺町にあり、大日山と號し天台宗比叡山延暦寺の末派にして本尊は乾漆十一面觀世音なり、舊と伊賀國坐光寺にありしを養老年間美濃國本巢郡長江に遷し美江寺と稱したり、爾來觀音妙智の靈驗燦んにして道俗男女の禮拜するもの踵を接したりしが、天文年中齋藤道三岐阜城を築くや當寺を此地に移し諸人の禮拜に便せしめたるもの卽ち今の美江寺觀音なり、而して明治二十四年に

は内務省より古社保存費金の下賜あり、越て大正三年國寶に指定せらるゝに至れり、當寺には毎年陰曆正月晦日美江寺祭、俗に鷲祭と稱し、有名なる祭禮ありて近縣養蠶家の來り賽する者甚だ多し。

彌八地藏　八ッ寺町にあり、昔時加賀野井彌八郎秀望此のあたりの土地を購ひて岐阜町の墓地と爲し、地藏尊を安置したるより此の名あり、今は岐阜市繁華の中心地となりて往時の面影を止めざるも晝夜賽するもの群をなして香煙濛々絶ゆることなし。

圓德寺　神田町六丁目にあり本派本願寺の末派にして岐阜落城の際織田秀信近臣十四名と俱に此寺に退きて剃髮し尋て高野山に入れりと云ふ、今猶ほ秀信の畫像兜其他の遺物現存せり。

金神社　金町あり社格は鄕社にして祭神は彦多都彦命の後妃縣神及び其生み給ふ所の二王子、卽ち市隼雄命、擁列根命の三柱を奉祀せり、境内東北隅に傳說に富める「加夫良木の櫻」あり目通りの周圍一丈六寸餘樹齡幾百年なるを知らず、眞に稀有の大樹なり。

一の榎（市神榎と云ふ）　濃陽絢行記に依れば、往時岐阜の郊外魚菜市場の目標たり、今の美園町一丁目にありしも六七十年前枯死したるを以て、里人更に植ゑ改めて舊の如くし明治維新の際此れを櫃森神社

の前に移植す、今尚生々繁茂せり。

三　國

結句全用歌謡

夏木成レ陰夏自幽。午風如レ水見二涼流一。茜紅衫子踏歌レ去。樹木〻阿銀無レ恙不。

森　春濤

篠ケ谷梅林　市の東郊にありて行くに電車の便あり、明治の初年舊上加納村の素封家篠田祐助氏此の地を拓きて一大私園となし、後之を開放して廣く遊觀の地となしたるものなり、園内春は幾百株の梅樹蕾を破りて清楚玉雪の如く香氣滿林、早曉杖を曳いて文墨を弄するの騷客あれば、黄昏月に歩して旗亭に醉を買ふの粋人もあり、やがて櫻花爛漫翠松の間を漏れて紅紗を曳けるが如く、和風麗日幾多の人をして歸るを忘れしむ、初夏は杜若咲ける水邊に螢火の飛ぶも興あり、秋は萩の幽姿蟲の清韻月明に逍遙せば、轉た人をして仙境に在るの感あらしむ、又冬は「いざさらば雪見にころぶ所まで」と詩人の來往絶えずして四季共に佳ならざるなし。

瑞龍寺　篠ケ谷梅林の西方町餘寺町にあり、金寶山と號し臨濟宗悟溪派なり、慶應二年齋藤越前守利藤入道妙椿、主君土岐成頼の菩提の爲め此寺を建立したりと傳ふ、悟溪和尚を以て開基とし、爾來

碩學の老師茲に住職し、今猶ほ四方の雲衲來集するを以て其の名高し、又什器寶物古文書の見るべきもの頗る多く、境内には古杉老松枝を交へて幽靜閑寂の淨境なり、江村北海の濃北紀道に

瑞龍寺殿宇規制及距山近遠酷肖二乎落下龍安寺一但欠二鴛鴦池一云々と

以て景趣の凡ならざるを知るべし。

岐阜聯隊　稻葉郡北長森村にあり美濃町線電車によりて岐阜市柳瀨町を發し、行くこと二十分にして達す、明治四十一年歩兵第六十八聯隊を設置せられ第五旅團に屬す、而して現時當聯隊の管區は岐阜、大垣、稻葉、羽島、安八、揖斐、本巣、山縣、武儀、郡上、加茂、可兒、土岐の二市十一郡なり。

各務原飛行場　稻葉郡那加村及鵜沼村の地域に在り、此の地は舊と陸軍の演習地たりしが、大正七年十一月航空第二大隊（高山線各務原驛下車凡二十町）設置せられ、更に大正九年五月航空第一大隊（高山線那加驛下車凡七町）を所澤より移轉せられ、今や本邦屈指の大飛行場となり、廣漠なる原野の上空には一日として機影を仰がざるはなく頗る壯觀を呈せり、又近く川崎造船所の飛行機製作工場も此の地に隣接して設置せられんとし、將來航空第一、第二兩大隊の施設完備と共に我國空界の中心地たるや蓋し期して待つべきなり。

金華山　織田右府の尾張より起りて將に天下に呼號せむとするや、先づ其の地形を案じて居城を構へたるは卽ち金華山なり、金華山は實に山容の秀麗なるのみならず、其の歴史的の趣味亦津々たるものあり、而して此の山は一に稲葉山（因幡山とも云ふ）破鏡山、又一石山とも或は岐山、鳳山とも云ふ、文明五年五月一條禪閤兼良の自撰日記に、江口より舟に乘りて二里ばかり、河傳ひに溯る、いなば山の麓をすぐる道なり云々。

峯におふる松とはしるやいなは山　こかね花さく御代の榮えを

稲葉山の名は、古くより著名にして、在原行平朝臣の歌にも

立ち別れいなはの山の峯に生ふる　まつとしきかは今かへり來ん

新撰美濃志によれば、山の廣さ西面九百八十間、北面千五百六十七間、東面三百二十四間、南面千八百四十八間、このうちに長尾、小洞、小山、十六峠、檜峠、馬酔木峠、淨玄洞、からうと洞、觀音洞笹洞、瓢谷、井戸谷、階子谷、尼谷、山桝谷、砂利谷、岩舟、岩穴、屏風岩、鼻高岩、切通、西條、東條、馬冷場、水の手、鞍懸、米倉、日野垣等多くの舊蹟あり。

金華山

森春濤

青山漠々奮金華。割據當年徒自誇。畢竟婿家多二武略一。也無二人說二賣油翁一。

九十九峯（予昔以白字爲九十九日百省一也）

老屋虛明雪壓レ松。開門兀立倚二枯筇一。私言自信戲言、是。九十九峰眞二白峯。

重疊として起伏せる群巒を區別すれば丸山は往時椿原と稱し、伊奈波神社の舊址なり、天文八年齋藤道三稲葉城修築の時、山南井の口谷へ遷座し奉れり、其の跡に奇岩あり是を烏帽子岩と云ふ、今は伊奈波神社の攝社として一小祠を存す、又近年此處に金比羅神社を奉祀せり、稲荷山には稲荷神社あり相場山は維新前黑白の旗を振り、桑名よりの米相場を報じたるに因りて此の名あり、權現山の神社は伊奈波神社の攝社にして東照宮と蠶神を合祀す、瑞龍寺山は南に延びて風光明媚なり金華山は卽ち此等群山を率ゐて中天に聳え、海拔一千百二十七尺あり、之れを昔時井の口城、金華山城、又は稲葉城と呼べり、歴代の城主は二十一代、其の初代より歳を閲する八百有餘、爰に順を追ひて歴代の城主を擧ぐれば

(一) 承暦三年　源頼光の孫美濃守國房　後ち百有餘年を經て
(二) 建仁年中　鎌倉の執事二階堂山城守藤原行政
(三) 蒲生秀郷の後胤刑部丞光郷の子伊勢守藤原朝光
(四) 朝光の二男伊賀守式部太輔藤原光宗
(五) 光宗の弟稲葉伊賀三郎左衛門尉光資
(六) 正元年中　山城守行政の二男二階堂出羽守行藤後ち百五十餘年を經て
(七) 應永の初め　左大臣魚名の裔孫齋藤越前守利政の子齋藤帶刀左衛門藤原利永古城を修理して此地に據る
(八) 利永の子帶刀左衛門利藤
(九) 利藤の子越前守利國
(十) 利國の子利親
(十一) 利親の子齋藤新四郎利良、幼冲なるの故を以て一族の齋藤利安之れを輔佐す利安は京都日蓮宗

僧侶の還俗せし松波庄五郎と云ふ油賣にして、諧曲の亂舞を能くするものを寵愛し、家老西村三郎左衛門の跡を繼がしめ、尋いで名を勘九郎と改めしむ、勘九郎後事に託して主人利安夫妻を弑す、齋藤の一族等之を怒り勘九郎を攻む、勘九郎竊に圍を脱れて土岐政頼の弟頼藝に救ひを求む、頼藝常在寺の僧に命じて遂に和睦せしめしに後復政頼及び政藝を逐ひて齋藤の本家を横領せり、卽ち稲葉城に居を移し此に於て美濃一國を奪ふ之れを
(十二) 天文八年　齋藤山城守秀龍と稱し、後道三と號す
(十三) 秀龍の子（一說に頼藝の落胤なりと云ふ）一色治部少輔義龍
(十四) 永祿四年義龍の子齋藤右兵衛大夫龍興
(十五) 永祿十年九月織田上總介信長
(十六) 天正四年信長の子從三位左近衛中將信忠
(十七) 信忠の弟織田三七信孝　天正十一年柴田勝家に與みして秀吉に攻められ、遂に自殺せり
(十八) 秀吉は池田紀伊守之助をして當城を守らしむ

(十九) 關白秀次の弟岐阜少將三好秀俊

(二十) 信長の嫡孫岐阜中納言秀信（三法師丸）慶長五年八月二十三日東軍と戰ひて敗れ、城を棄てゝ走る、是れ最終の城主なり

慶長七年、德川家康、城を毀ちて、加納に移さしめ、山を岐阜の御山と稱して、猥りに常人の入るを禁じたり、當時岐阜町の制札と御朱印なるもの左の如し

御免許御制札

一賣買に一切出入不可致事

一傳馬諸役金免許の事

一往還宿取亭主無合點者不借事

一火事到來の時家主精を入銷すべし若逃走り候はゞ可爲越度付其砌濫妨仕候はゞ可戒致事

一喧嘩口論押賣狼藉可爲曲事

右條々於違犯輩可致嚴科者也仍如件

慶長六年八月五日　　大久保重兵衞（判）

權現樣御朱印の御文

此朱印なくして傳馬押立有之者は其町中の者出打ちころすへし若左樣にならざるものにおひては其人を聞て可申上者也仍如件

慶長七年三月七日　　岐阜町中（以上岐阜志略）

當時此の制札のうちころすの『ろ』は『ら』の誤書なりと辯するものあるも、昔時に在りては假令誤字なりとて其の訂正を許さゞりしと云ふ、此の御朱印文は明治二十四年震火災に燒失せり。

元和五年尾張侯の所領となり、元祿八年尾張侯は岐阜奉行を置けり、爾來二百有餘年御山に關する一切の諸事は岐阜奉行の裁する所たり。

◎特　産　品

岐阜縮緬　美濃の地絹織物を産せしは遠き昔にして藤原明衡の新猿樂記には美濃八文と見え、園太曆貞和四年十月二十七日の記續日本紀南部東大寺所藏の古證文、宇津保物語、延喜式等には美濃の織物を記せしもの甚だ多し、又新選六帖爲宗朝臣の歌に「山みちやみのゝひろきぬ織るはたのおよひくるしきこひもするかな」と見ゆ、而して縮緬の岐阜名産として世に知られしは慶長の頃よりにして爾來盛に製出せられ烏帽子縮緬、紋縮緬、絽縮緬、山繭縮緬等は其の重なる産品なりとす維新後重要物産同業組合法發布せらるゝや、組合を設けて一層製品の改善を圖り以て今日の聲價を揚ぐるに至れり

岐阜提灯　夏季納涼の點燈具として、將又四時室内の裝飾品として、高尚優美を極め、上は雲深き九重の宮居より、下は庶人に至るまで洽く愛翫せられ、また盛に海外に輸出せらる、而して其の創製は古く慶長の昔にありて德川幕府時代には屢々獻進して嘉納せられたりと云ふ、明治時代に至り其形狀製造法彩畫模樣等に漸次改良を加へて現今の如き精巧なるものを製造するに至れり、依田百川翁岐

阜提灯記の一節に

皮如二蟬翼一骨如二銀絲一形圓稍長、纖毫縷レ畫　秋芳疊レ錦　月影蟲聲彷彿二佛眞景一
點二火其中一懸二之簷間一　則清風颯來凉氣滿レ室者何　岐阜提灯是也云々

以て其の優美典雅なるを窺ふに足るべし、尚二三の和歌をあげんか

なから川月なき夜にも水の上に　光すゝしき軒のともし火　大勳位晃親王
秋草の花をもうつす燈火を　よひ〳〵軒にかけてこそ見れ　村雲日榮尼公
灯す火に畫きし樣も鮮やかに　みえてはしゐそ凉しかりける　源慶永
凉しさに美はしさをもこめて見る　この燈火にますかけはなし　福羽美靜

長三洲

岐阜燈　紙衣淡薄竹身輕　野草幽花畫得成　桂向軒窻凉似水　一燈風影看秋生

岐阜行燈　一名鵜飼行燈ともいひ、明治維新後の創製なり、其の構造の精巧にして體裁の雅致に富めること岐阜提灯と竝び稱せらる、夏夜清風徐ろに輕衣を吹くの時、之を籠影に見んか、凉氣肌に迫

りて詩趣油然たるを覺ゆ。

岐阜團扇　本品も明治維新後の改良考案にして、其の形狀體裁の高雅なると、價格の低廉にして丈夫なるとに於て洽く賞用せらる、而して其の形態一ならず、或は雁皮張、奉書張、絹張等あり、之れに透し入り密畫等の意匠をこらし專ら考案に力を注ぎて改良工夫しつゝあり。

雨傘　普通美濃傘と稱へ、主産地は岐阜市及隣町加納にして、本縣の工産品中重要の地位を占む、元來本縣は其の主要原料たる和紙の主産地にして其の需給關係極めて圓滑なると、竹及油も縣内の生産品を用ふること甚だ多く、從つて價格も比較的低廉にして然も實用と體裁共に具はり、廣く需用者の嗜好を迎へつゝあり。

柳行李　十數年前より縣下本巢郡及び安八郡地方に於て其の原料たる杞柳の栽培盛となりたる結果本市にも此の製品を見るに至りしものなるが、品質良好にして體裁優美、構造また堅牢にして廣く聲價を博しつゝあり。

絹紬　明治三十七年頃「ケンドン」と稱して産出せられたるに始まり、爾來漸を追うて改良發達し

明治四十四年關税改正に伴ひ柞蠶絲の輸入税免除せらるゝや、經濟的地歩を獲得して旺に其の製出を見るに至れり、更に大正元年頃より外國輸出の端を啓きたる結果産額著しく增大し、今や年産額壹千萬圓を突破し本縣の重要工産物として名を内外に成すに至れり、依て大正八年中重要物産同業組合法に依り組合を組織して製品の改良發達を企劃し、翌九年には農商務省令に基き檢査所を開設せられて更に面目を改むるに至れり、又近時之が美術的加工品として絹紬縮緬、友禪絹紬、絹紬布團地、縞絹紬等の如き高雅にして而も實用的製品大に興り、其の需用益々增加するの盛況にあり。

菓子　岐阜の地古より製菓の業進歩し、從て其の製品には他の企及すべからざる獨創的特徴を有するもの尠なからず、就中松風、雪達摩、都鳥、子籠鮎（鮎菓子と）（もいふ）等は其の沿革する所甚だ古く、然も品質純良にして形狀は徒らに修飾を加へず、自ら雅致に富むを以て廣く世人の嗜好を迎へつゝあり。

鮎（うるか）條腸　長良川産の鮎の條腸より調製したるもの、産額甚だ多からずと雖も、酒の肴として最も重寶せらるゝ所にして、雅趣ある小形の陶器に容れ土産物として市内各所に販賣せり、此の外「子ウルカ」とて鮎の卵より、製したるものもあり、鮎條腸と共に世に知らる。（うるかの製法につきては別項鮎料理に悉し）

鮎粕漬　近年の發賣にして其の需要甚だ多きも原料之に伴はざる爲め製出少なきは惜しむべし、佳味口に適し土産物として最も推賞せらる。

守口漬　近郷島村の特産守口大根（一名細根大根といふ徑六七分長さ三四尺あり）の粕漬なり、香の物として之を食膳に供すれば風味佳良なるを以て、近時縣外に移出せらるゝもの甚だ多し。

◎長良川の鵜飼

起原と來歴　我日本に於ける鵜飼の起原は未だ詳かならずと雖も、之を書史に徴するに、日本書紀神武天皇御製に「島つ鳥鵜養か徒」と詠せさせたまひしを始として、令義解にも鵜飼、江人、網引と見え、和名鈔に美濃國方縣郡鵜養と記し、集釋別記に鵜飼三十七戸とあり、又新撰美濃志には方縣郡鵜飼の郷、折立、黒野、下鵜養、小野、古市場、今川、交人、洞、御望の九箇村（今の稲葉郡黒野村大字折立、黒野、下鵜飼、古市場、今川、交人、洞、御望、本巣郡西郷村大字小野）にて、折立は其の中の本郷とあり、里老の傳ふる所に依れば、延喜年間、長良川の邊に鵜飼七戸あり、美濃國守藤原利仁　勅を奉じ、鵜飼の鮎を干製して進献せしに　叡慮に適ひ、爾後

毎年干鮎を獻せり、之に依て　朝廷より鵜飼七戸に當國方縣郡の内にて七郷の地を籌松の料に賜はる之を鵜飼七郷と稱し、其の地に七社明神ありて、當時の氏神なりしと云へり、其の後時勢と共に變遷し、一郷一戸の鵜飼は分れて三戸或は四戸となり、仁平年間には、七郷にて二十一戸となり、盛に此業を營み、鮎の風味も特殊なるものあるを以て普く世間に知られ、遂に國產の一となれり、其の頃鵜飼の長たりし白明と云ふ者、鵜漁の益々盛ならむことを計り、河流の便利に隨ひ、鵜飼業者を方縣郡長良村（今の稲葉郡長良村大字長良）各務郡岩田村（今の稲葉郡岩村大字岩田）に分住せしめしに、後世岩田村より武儀郡小瀬村（今の武儀郡瀬尻村大字小瀬）に移れりと云ふ、又平治元年、源義朝待賢門の戰に敗れ、東走のとき其子頼朝父に後れて長良川の下流に到る、時に夜暗うして路に迷ひ、遙に燈火を認めて鵜飼の家に投ず、主翁厚く之を遇し、發するに臨み鮎鮨を製して旅餉に供す、後建久元年、頼朝上洛の途次、翁の子孫を尾張熱田大宮司季範の館に召見し、土瓶二個に一は金錢を盛り、一は銀錢を盛りて之を與へ、先人の德に報ず、此時又鵜飼どもより鮎鮨を献ず、是れより例として鎌倉幕府に鮎鮨を献ずることゝなり、降て足利氏の時にも、生鮎を室町幕府に献せしことありと云ふ。

文明年間、一條禪閤兼良京師の亂を避けて美濃に來りしとき長良川の鵜飼を觀しこと藤川記（兼良自撰の日記）に見ゆ、「十七日又かゝしまへかへる、月出ぬほと江口に出て鵜飼を見る、六艘の船に篝をさしてのほる又一艘を設けて其れに乘りて見物す、おほよそ此川の上りくたり、闇になれは獵船の數を知らぬと聞て、ゆふ闇に八十とものをの篝さしのほるうふねの數はしられず、鵜の魚をとるすかた、鵜飼の手繩をあつかふ體なと、けふはしめて見るなれは、言の葉にものしかたく、哀とも覺へ、又興を催す物なり、うかひ人くるやたなはの短夜もむすほゝれなはとくはあけしを、すなはち鵜のはきたる鮎を篝火にやきて賞翫す、これを篝やきといひならはしたりとなむ、とりあへぬ夜川の鮎の篝やきめつらとも見むあはれともみむ」とあるは能く當時の實況を寫したるものと謂ふべし。

永祿七年、織田信長長良川の鵜飼を觀覽し、是れより鵜飼業者を鵜匠と改め、鷹匠と等しく遇し、一戶に祿米十俵と漁船を給す、慶長五年關ヶ原の役福島正則の先鋒大橋茂左衞門金華山の背後より進擊せしとき、軍役を鵜匠及び此の土地の者に命せしに、之に從はざりしに依り、火を縱て家屋を燒きしが此時鵜匠の家に傳はりし古記錄悉く烏有に歸せりと云ふ。

一特別配當付信託預金（金額壹口壹百圓以上 保證參ヶ月年六分三厘 六ヶ年同六分五厘 利率一ヶ年同七分）

資本金　壹百萬圓也

一擔保付手形金融
一有價證券賣買仲介
一肥料仲介（購買組合其ノ他各種團體ノ申込歡迎）
一帝國海上運送火災保險株式會社代理店
一朝日海上火災保險株式會社代理店
一其ノ他信託業務一般

岐阜市中竹屋町拾參番地

Ⓚ 日下部信託株式會社

取締役社長　日下部久太郎
同　常務　御友重德
電話（長九三六番 長二二六番）

◎營業案内及日下部信託時報御申越次第進呈

◉特別長期据置元利
◉農工債募応
◉定期積金
◉当座預金

出世預金
特約預金
一般預金

岐阜市神田町二丁目

株式會社 **濃飛農工銀行**

電話(岐)一二三番、七八九番
振替貯金名古屋二九〇〇番

◉年賦「ナシクヅシ」貸金
◉定期「普通」貸金
◉手形割引

岐阜市七軒町

株式會社 **愛知銀行岐阜支店**

電話(長)七七七番
九二七番

本店 名古屋市西區玉屋町

名古屋市内支店

傳馬町支店
幅下支店
古渡支店
宮町支店
熱田支店
門前町支店
柳橋支店
枇杷島支店

各地支店

東京支店
大阪支店
静岡支店
豊橋支店
岡崎支店
一宮支店
津支店
四日市支店

大垣支店
北方支店
新川支店
半田支店
津島支店
中津川支店
多治見支店
御嵩支店

元和元年、德川家康大阪より凱旋の途次、岐阜に宿陣して鵜飼を觀る、其の場所は金華山の下、鏡岩の瀨にて、家康の乘船を中央に泛べ、二十一艘の鵜船其の前後左右を圍繞して鵜を使ひ、捕りたる鮎を石燒（川石を拾ひ之を篝火にて燒き、其の石にて生魚を燒く）となして供せり、續て德川秀忠も亦た來りて鵜飼を觀覽せり、是れより先き、慶長八年、始めて家康に鮎鮨を獻せしに大いに之れを賞美し、爾來鵜匠二十一名に給米料として各金拾兩宛を支給し、鵜匠の所有する土地の諸役を免じ、且つ鵜飼保護の爲め、美濃國郡上郡より安八郡までの內、郡上川（長良川の上流）を始め、支川十二流の沿川各村に令を下し、川筋にて新築、或は新ソヂを打ち鮎を堰止め、又は鵜飼先にて網を入るゝ等すべて鵜飼の妨害となることを禁止せり、同時に岐阜に鮎鮨製造所を置き、毎年五月より八月まで、月に二回鮎鮨を江戸に送らしめ、同十九年よりは增して毎月六回となし、其の費用は岐阜陣屋より支辨せり、元和五年以後は名古屋藩の所轄となりしも舊例の如く毎年江戸に送獻し、猶ほ禁裏御所女院御所進獻の御用を命せられ、寶永四年鵜匠頭三名に苗字を許し、文化五年十二名の鵜匠（二十一名なりしも、廢業者ありて當時十二名となれり）に祿米百二十石、金五百參拾貳兩貳分を給せらる。

各種印刷
洋式帳簿
高尙なる印刷物の
御注文を歡迎す
西濃印刷株式會社
岐阜市七軒町
大垣市郭町

慶應三年、有栖川宮殿下より　禁裏御所へ麹漬の鮎進獻の御用を蒙り之を製造して奉呈せり。
明治維新の改革にて、從來の待遇を廢し、米金の給與を止め、更に鵜匠に川漁取締役を命じ、一名に二人口宛の廩米を給せられしに、明治四年に至り又之を廢され同六年以後は岐阜縣へ若干の鵜飼税を納め、自力にて營業することゝなれり、然るに同十一年十月、
明治天皇御巡幸岐阜御駐輦のとき、岩倉右大臣長良川に船を浮べ、鵜飼を觀覽して大に其の奇觀なるを賞讃し、其の夜捕獲せし鮎を直に天覽に供せられしに、金若干を鵜匠に賜はる、又同十三年六月、
京都府外二縣へ御巡幸の御途次、岐阜縣土岐郡多治見村に御駐泊のとき、富小路侍從より鵜飼の鮎を名古屋行在所に奉るべき旨を傳へられ、鵜匠は直に旨を奉じて其の夜捕獲せし鮎千尾を行在所に奉呈せしに、尚ほ京都へ回送し御駐輦の供御に奉るべしとのことにて、縣官之を監護して京都に送致せり
同二十三年十二月、長良川筋稻葉郡長良村古津に於て延長凡四百十間、武儀郡洲原村立花に於て延長凡六百三十一間、郡上郡嵩田村上田に於て延長凡千六百二十四間の三箇所を御獵場に定められ、獵場監守長、獵場監守、鵜匠小頭、鵜匠を置き、宮内省主獵寮に隷屬せしめ、毎年夏期に、主獵官出張し

て御用の鵜漁を行はれ、或は時に供御の鮎を召寄せらるゝことあり、鵜匠には鵜飼用篝松の料として岐阜市金華山、武儀郡美濃町古城山の御料地枯損松木を賜はり、尚ほ御用鵜漁のときは若干の手當金を賜はり、同二十八年よりは前の手當金の外、鵜匠小頭、鵜匠には各々年給を賜はることゝなれり。
斯の如く鵜飼は幾多の變遷を經て、時に盛衰ありしと雖も、連綿繼續して今日に至り、今や聖世の恩澤に浴し、此の業の益々盛なると共に、岐阜名物の一として普く天下に聞え、明治維新後に於ては屢々皇族殿下の台覽を忝うし、明治二十六年八月墺國皇太子、同三十九年五月暹國皇族、同四十一年八月今の李王世子、大正七年七月英國皇弟、同九年七月羅國皇太子殿下の御觀覽あり、其の他内外貴顯の來觀年を逐うて增加し遠近衆庶の觀覽避暑を兼ね毎年來り遊ぶもの幾萬なるを知らずと云ふ。

鵜の捕獲及馴致方法　鵜飼に使用する鵜は、愛知縣知多郡篠島に於て捕獲するものにて、島鵜と稱し、通常の鵜よりは其の形ち大にして頸の長さ七八寸、背一尺二三寸、全體の重量約六百五十匁、乃至八百匁あり、其の產地は詳ならずと雖も、冬期北海に鰯の群集して南海に移るとき、鵜も其れを追うて北海より南海に來ると云ふ、之を捕獲する方法は、海面に露出せる岩上に鏡玉を置き、鵜の自ら

來りて鵜玉に罹るを捕へ、先づ一羽を獲れば麻絲にて眼瞼を縫ひ、之を囮として岩上に留置き、其の附近に數多の鵜玉を配置して他の鵜を誘ふ、他の鵜は友鳥の岩上にあるを見て、其の側に危險の伏在するを知らず、續々來りて之に罹ると云ふ。

斯の如くして捕獲したる鵜は、何れも皆眼瞼を縫ひ、籠に入れて使用地に送る、使用地に到れば先づ眼瞼を縫ひたる絲を拔き取り、翼の一部を剪りて飛翔すること能はざらしめ、猶ほ羽毛に附着せる鵜を悉く除去したる後、苧繩にて其の體を縛し、毎日一回船に乘せ又は河水に放ち、繩付のまゝ游泳すること、又舷頭に停止することを馴習せしむ、初め未だ人に馴れざる間は、水に入りても魚を捕らざるのみならず、動もすれば人に咬み付く癖あるを以て、細き藁繩にて嘴を縛す、是れを嘴掛と云ふ、五六日を經て稍々人に馴れたる頃嘴掛を除き、其れより又六七日を經て、古參の鵜と共に小川の淺瀨に放ち隨意に游泳せしむ、此時古參の鵜は互に競ひて魚を捕れども、新參の鵜は中流に彷徨して己れの業を知らざるものゝ如し、斯くて又四五日を經れば、古參の鵜を見習ひ、漸く一二尾の小魚を捕る是れより次第に習熟して翌年五月鵜飼を始むる頃には、略ぼ獨立の働きを爲すに至る、然れども或は

篝火に恐れ、或は舟棹に驚き、且つ捕魚の術にも尙ほ熟練を缺く所あるを以て、一二年を經るに非ざれば、充分の活動を爲すを得ず、鵜匠は克く鵜の勤惰、能否を知りてて之を使ひ、鵜の年齢に依りて其の席次を定め、又各々の鵜に命名して之を呼ぶ、漁業畢りて鵜を舷頭に整列せしむるときは、宛も軍士の戰勝て隊伍を整ふる如き觀あり、首を擧げ翼を振ひ、意氣昂然として四邊を睥睨す、此時若し其の席次を誤れば忽ち爭鬪を生ずと云ふ。

鵜は漁業の季節（五月十一日より十月十五日まで）を除く外、餌飼を以て養ふ、餌飼とは、縛繩を施さず、隨意に游泳して自由に魚を捕食せしむるを云ふ、然れども食量一定ならざるときは疾病を釀す虞あるを以て、鵜匠は鵜の雙翼を提て腹部の重量を試み、過食したるものは之を吐かしめ、不足のものは豫め蓄ふる所の生魚を與へて之を補はしむ、又鵜匠の家には必ず鳥部屋を設け、且つ常に生魚を蓄へ置き、餌飼の充分ならざるとき、又は寒中降雪甚しきとき、或は雨後濁水のときは家飼を爲す、食量は一日一羽に凡二百匁を適度とし、正午頃一回之を給す、餌は鮠を最も宜しとすれども、鮒、鮑其の他の雜魚を交せ與ふ。鵜の壽命は、從來二十年乃至二十五年なりしも、近年は平均十二三年に減縮し、又傳染性の熱病

發生し、これに罹るものは早きは卽日、遲きも四五日にて斃れ、或は治癒するも、廢鳥となりて使用に堪へざるに至るものありと云ふ。

漁業の方法　鵜飼漁業は、鮎の稍々成長したる頃、毎年五月十一日より十月十五日まで、滿月の夜と雨後濁水時を除く外、毎夜之を行ひ、上弦には月の入るを待ち、下弦には月の出でざる前に、上流より漸次下流に狩り下す。鵜船の數は長良は七艘、小瀨は五艘にして、長良と小瀨とは相互の協約を以て、漁獵の區域を定むと雖も、御用鵜飼のときは合同して之を行ひ、其の他のときに於ても、或は聯合して之を行ふことあり。

鵜船一艘の乘組員は、鵜匠一人、中鵜使一人、船夫二人にして、舳先に篝火を焚きて水面を照し、鵜匠は烏帽子を冠り、腰蓑を着け、舳先に在りて十二羽の鵜を使ひ、中鵜使は中央に在りて四羽の鵜を使ふ、船夫は舟棹を執りて艫と中央とに在り、一を艫乘と云ひ、一を中乘と云ふ。鵜匠の鵜を使ふには左手に手繩を握り、鵜の魚を逐うて出沒游泳するに隨ひ、交互紛糾せる手繩を捌きて、其の行動を自由ならしめ、魚を呑みたること多きものは之を船に引上げ、右手を以て鵜の喉を壓し、左手に手繩を

握りたるまゝ、嘴を開きて魚を吐かしむ、吐き畢りたる鵜は復直に放ちて之を使役す、其の間に屢々篝の薪を添へ、又船の方針を指示するなど、頗る繁忙にして最も敏捷の手腕を要す、船夫は克く河流の緩急、淺深及び鮎の多く棲息する所を知りて船を行り又鵜の行動に隨つて船を進退し、鵜匠と相待ちて共に操縱の妙を極む。

鵜の魚を捕る際には或は其の頭部を咬み、或は其の後尾を咬むことあるも、之を嚥下するには必ず頭部よりす、稍々大なる魚の後尾を咬みたるときは、一旦之を空間に振り上げ、其の落下し來るを受けて嚥下す、其の機敏にして熟練なること、一も過つことなし、然れども適々鰻を捕りたるときは頗る困難を極め、再三振り上げて其の頭部を咬むも容易に嚥下すること能はず、往々之を逸することあり鵜匠が鵜の喉を壓して魚を吐かしむるは、一見稍々殘酷なるが如しと雖も、鵜は既に常習となりて毫も厭苦の狀なく、直に再び水中に投じて魚を搜索す、又鵜の喉を縛ること緩に失するときは、捕りたる魚を腹部で嚥下し、之が爲め早く滿腹して捕魚を怠り、又嚴に過る時は早く飢勞して遂に病を釀すことあり、其の縛り方は小魚を嚥下し得るを度とし、緩嚴宜きを得ること最も必要にて一の秘訣なりと

云ふ。

鵜船は一の瀬を下る毎に先後の順序を改め、上の瀬にて先頭なりしものは、次ぎの瀬にて後尾に廻はり、順次其の序列を變更するを例とす、其の船列は魚鱗の如く、又鶴翼の如く、秩序整然として流れに隨て下る、又時として數多の鵜船を一列に竝べ、水の淀みたる場所を包圍して卷狩することあり、之を搦みと稱す、此時各船の篝火は水を照して晝よりも猶ほ明かに、船夫は舷を叩き、鵜匠、中鵜使は疾呼して鵜を激勵す其の舷を叩く音鵜を激勵する聲相和して水面に響く、鵜は勢に乘じて縱横自在に出沒し、逃るを追ひ匿るゝを捕へ、魚族をして幾んど遺類なからしめんとす、鮎の狼狽して度を失ひたるもの或は砂上に跳ね上り、或は躍て舟中に入ることあり、是れ鵜飼漁業中の最も壯觀にして觀覽者の激賞する所なり。

◎鮎と其の料理

從來鮎の生立と鮎の料理を案內せしものなければ聊か茲に附記して食膳の一話とす。

川魚にして惡食せざるもの少なし、然るに鮎の食ふものは硅藻と稱する水垢にして、鮎の特殊なる香味は實にこの硅藻より生ずる自然の香りに由ると稱せらる、殊に雨にても降りて水の濁る時は、この硅藻は著しく生すれども、鮎は之れを食することなく、やがて水の流れ澄み硅藻の新芽出づるを待ちて之を食ふにより雨後二三日を過ぎたる清流の鮎は一段の風味ありて食膳に上すに最も佳し、鮎は分類上、鱸口類、鮭魚科に屬す、冬春の候は鮎の稚魚時代にして、淡水と鹹水と混淆する河口附近の海中に棲めども、三四月の頃身長二三寸となるや群を爲して上流に溯る、其の性頗る活潑にして一二尺の小瀑位は能く跳り越すことを得、之れを小鮎、上り鮎、若鮎など稱す、此時代の鮎は昆蟲などを食するにより例の蚊針にて釣らるゝも、上流に溯ると共に食餌は一變して硅藻のみとなり、八九月に至れば生長の極度に達して大なるものは一尺內外に及ぶ、味最も美にして鮎の眞味は實に此の時を逸すべからず、恰好此季節こそ鵜飼の眞盛りにして、誰やらの句に

聲あらば鮎も鳴くらむ鵜飼船

この時季より鮎は卵巢內の卵の成熟して產卵期に近づくと共に漸次下流に下る、之を下り鮎又は落ち

鮎と云ふ、此の下り鮎は全身の光澤を失ひて腸は錆色となる仍て錆鮎とも云ふ、夫より十月頃淺瀬の砂礫について、夕方より夜中にかけて雌雄相集りて卵を產む、俗に之れを鮎の瀨につくと云ふ、卵は一尾の鮎につき五六萬粒より多きは八九萬粒内外に達し、其の產み散らされたる卵は砂礫に附著し一週間乃至二週間にて孵化すれども性來庶弱なるを以て水に押し流されて遂に海に出で波靜かにして淡鹹相交る流域に棲息し翌年三月頃より次第〳〵に川を溯るものなり、而して親魚は大抵衰弱して斃るゝもの多きも中には越年するものあり、之を止り鮎と云ふ、鮎肉を分析すれば左の如き成分あり

水分七八、九〇　蛋白質一七、六六　脂肪一、八九　灰分一、五五

肉は一般に軟かにして脂肪比較的少なく、淡白美味にして最も消化良好なり。

鹽燒　鮎の片身に尾の方より二つ宛逆に庖丁を入れて之に燒鹽を含ましめ、全身にも燒鹽を振りかけて遠火にて燒き、鮎の上に竹木或は網等を置き、其の上に濡れ布巾をかけて蒸燒とす。

吸物　鮎を三枚に卸し片身をまきて少時酢に漬け、上に揚げて酢を垂らし鹽汁に入れて煮るものとす。

粕漬　新らしき鮎の鰓より尖の曲れる針金を腹部に入れて腸を引き出し、よく洗ひて暫く乾かし、食鹽を腹内に詰めて鹽漬とし三週間位の後之を洗ひ、布巾にて水分を吸ひ取り、又別に鮎の卵を醬油にて熬煮したるものに砂糖を混ぜ、之れを前の鰓の處より腹の内に詰め込み酒粕に漬けて一箇月位置けば、美味の食品となるものなり。

魚田　此の製造には秘傳あれど、要するに味噌は甘味噌より鹹味噌を主とするを可とす。

鮎鮨　此の製造は新らしき鮎の腹を割きて、其の儘鹽に押し約一日を經て鹽水にてよく洗ひ鰓をとりたる上更に清水にて洗ひよく冷えたる上白米飯を、適宜に握りて、其の腹部に詰め置き、別に飯を一度水に洗ひ水氣をたらし置きたるものを用ひて漬桶の中に漬け込み、壓をなすものなり、又甘漬といひて鮎の鱗及び臟腑を取り除き、口に少量の鹽を入れ置き玄米を常の飯より强き加減に炊きたるものを漬桶の中に一面に敷き、其の飯の隱れる程に麹をふり其の上に鹽を厚くふりて後、右の鮎を一列に竝べ、又前の如く飯、麹、鹽といふ具合に漬け込むものあり。

鮎の干物　取りたての鮎の腹を割き能く水にて洗ひたる上、之に食鹽、或は醬油を塗り、一日位、

屋根か石の上にて干すものなるがなか〳〵美味にして磧にて即席に出來るものなり、其の他天麩羅、フライ、甘煮等色々あり。

うるか　此れは多く酒家の好むものなり

一、兒うるか　鮎の粟兒と白兒とを取り、之を混じて其量四百目鹽三合の割にて壺又は桶に漬け蓋をなし置きて時々之を攪拌し、三四十日を經て食用に供す。

二、苦うるか　鮎の内臓を取りて製す前と同法なり。

三、切込うるか　鮎の頭部及び鰭を除きて腸のあるまゝ肉と共に庖丁にてよく叩き前と同法にて漬け込みたるものをいふ、之れに少し麹を加へ、又味噌を調和したるものもあり、而して食鹽は極めて精製したるものなるを要す。

特色

毎期利益金全部積立

株式會社 蘇

蘇原銀行

岐阜市神田町二丁目

電話 一九三二 九九番

支店出張所

元町支店　電話五八四番
材木町支店　電話一〇二九番
南出張所　電話一一〇七番
加納支店　電話七六六番
笠松支店　電話一一一番
長良支店　電話三八四番
太田支店　電話二二番
高富支店　電話五番
黒野支店　電話三番
北長森支店　電話一三二五番
新加納支店
蘇原支店
小金田支店
梅原出張所

岐阜提灯
岐阜團扇
大内行燈

岐阜市小熊町　電話國五八番
製造本舗　尾關治七
振替　東京一七四九五番
大阪二三七四五番
口座　福岡一三二〇八番

營業品種目

岐阜提灯
岐阜行燈
岐阜團扇
岐阜雨傘
貿易雜貨類
各種

絹張
紙張
岐阜提灯
之精華

岐阜市今小町
村瀬商會

電話五七二番
振替大阪一六九五四番

營業
鮮魚
鹽乾魚
果實、蔬菜

委托販賣

資本金五拾萬圓、明治二十年以來連續之市場仲買人及口座五百名

岐阜水産市場株式會社

岐阜市長住町一丁目（岐阜驛ヨリ東北一丁）
電話三三一番　六〇三番　九九六番

中魚商賣場

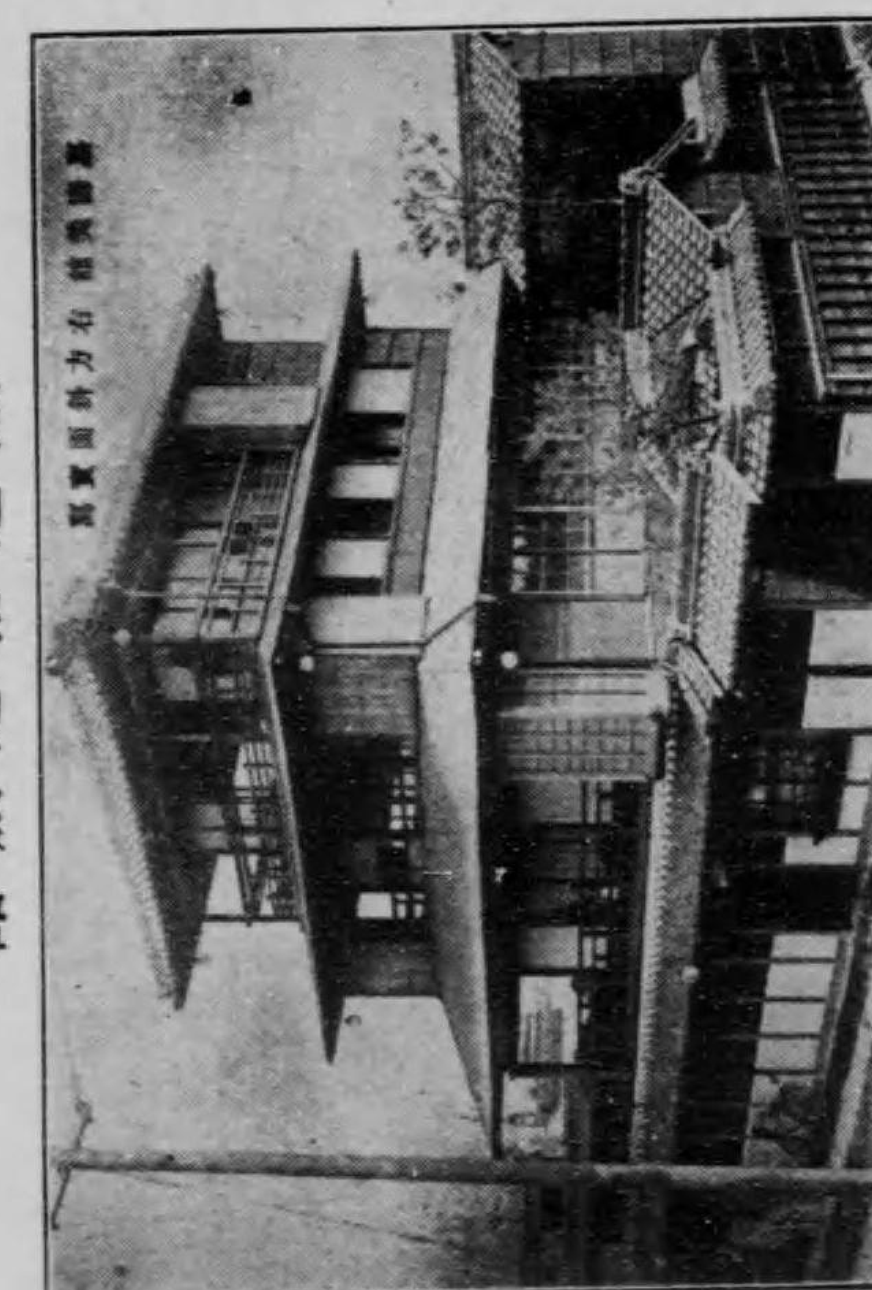
岐阜市万力町五番地
電話六五四番

官衙公署其の他

名稱	位置
岐阜縣廳	司町
岐阜縣會議事堂	同
岐阜縣蠶業取締所	縣廳內
岐阜縣蠶業取締所岐阜支所	西野町三丁目
岐阜縣穀物檢查所	司町
岐阜縣穀物檢查所岐阜出張所	長住町三丁目
岐阜縣農會	司町
岐阜縣敎育會	同
岐阜縣敎育會附屬圖書館	同
岐阜縣度量衡檢定所	縣廳內
岐阜縣物產館	司町
岐阜縣病院	同
岐阜縣巡查敎習所	今澤町
金津病院	千歲町
岐阜市役所	美江寺町
岐阜市農會	市役所內
岐阜市傳染病院	姥塚
岐阜市屠畜場	上加納山
岐阜地方裁判所	今澤町
岐阜區裁判所	同
岐阜監獄	美江寺町

調理は清鮮
座敷は瀟洒
集會にも適し
淺酌にも好し

鐵道指定旅館



岐阜驛前四層閣　電話長二四五番
嘉壽美館
加藤角太郎
岐阜驛構內 辨當 鮎鮓 土產物 出張販賣

岐阜郵便局	神田町一丁目	岐阜憲兵分隊	柳ヶ瀬町三丁目
河原郵便局	湊町	岐阜驛	清田町
米屋町郵便局	米屋町	岐阜鐵道建設事務所	高砂町四丁目
今小町郵便局	今小町	岐阜公有林野官行造林署	溝旗町
佐久間町郵便局	佐久間町	岐阜商業會議所	大門町
金津郵便局	大門通	縣立岐阜中學校	京町二丁目
元町郵便局	元町一丁目	縣立岐阜高等女學校	西野町五丁目
驛前郵便局	神田町九丁目	市立岐阜商業學校	鶯谷
岐阜電話交換局	神田町一丁目	岐阜市實業補習學校	商業學校內
岐阜警察署	今澤町	岐阜尋常高等小學校	京町二丁目
岐阜税務署	松屋町	岐阜尋常小學校	大工町
岐阜聯隊區司令部	金岡町	明德尋常小學校	明德町

徹明尋常小學校	金園町	私立岐阜病院	金町五丁目
白山尋常小學校	白山町	私立小坂病院	秋津町
私立佐々木實科女學校	佐久間町	岐阜縣師範學校	市外加納町
私立富田女學校	八ッ梅町	岐阜縣女子師範學校	同
私立岐阜裁縫女學校	田生越	縣立農林學校	同
私立岐阜訓盲院	梅ヶ枝町	縣立加納高等女學校	同
財團法人名和昆蟲研究所	公園內	岐阜測候所	同
岐阜縣免囚保護會	菅原町二丁目	岐阜縣農事試驗場	同
岐阜保育會	駒爪町二丁目	岐阜縣蠶種製造所	市外長良村
日本赤十社岐阜支部	金町一丁目	岐阜縣農事講習所	同
愛國婦人會岐阜支部	縣廳內	步兵第六十八聯隊	市外北長森村
日本海員掖濟會岐阜支部	同	衞成病院	同

航空第一大隊　稲葉郡那加村
航空第二大隊　同　鵜沼村

重なる銀行會社工場

名稱	位置
株式會社十六銀行	中竹屋町
株式會社濃飛農工銀行	神田町二丁目
株式會社蘇原銀行	同
株式會社岐阜貯蓄銀行	米屋町
株式會社美園貯金銀行	美園町四丁目
野々村銀行	米屋町
株式會社名古屋銀行岐阜支店	神田町三丁目
株式會社吉田倉庫銀行岐阜支店	今小町
株式會社大垣共立銀行岐阜支店	同
株式會社愛知銀行岐阜支店	七軒町
株式會社報德銀行岐阜支店	神田町六丁目
株式會社不動銀行岐阜支店	神田町七丁目
美濃電氣軌道株式會社	長住町二丁目
名古屋電燈株式會社岐阜支店	今川町二丁目
日本毛織株式會社岐阜工場	鶴田町
日本絹毛紡績株式會社岐阜工場	五坪
後藤毛織株式會社岐阜工場	大寶町
片倉製絲紡績株式會社岐阜田中製絲場	忠節町六丁目
金山製絲株式會社岐阜支店	本郷町

丸金製絲場	益屋町
株式會社岐阜米穀取引所	三番町
岐阜織物株式會社	長住町二丁目
岐阜絹織物株式會社	金町六丁目
金華毛織株式會社	徹明町一丁目
合名會社吉村商店（柞蠶絲、生絲、等ノ賣買）	若宮町四丁目
岐阜撚絲株式會社	菅原町
大日本紙絲株式會社	八ッ梅町二丁目
特許戸滑紙製造株式會社	矢島町二丁目
東洋紙業株式會社	佐久間町
金華紙製品株式會社	同
合名會社松井商店（紙及製紙原料販賣）	玉井町
岐阜木材株式會社	吉野町六丁目
美濃製材株式會社	長住町二丁目
岐阜水產市場株式會社	長住町一丁目
大一海陸物產株式會社	金園町一丁目
山キ八百喜株式會社	安良田町二丁目
岐阜魚幸株式會社	金園町一丁目
丸三繭絲株式會社	神田町六丁目
岐阜繭絲株式會社	神田町八丁目
岐阜生繭乾燥株式會社	長住町三丁目
中央肥料株式會社	神田町九丁目
合資會社矢橋商會（肥料石油等ノ販賣）	神田町八丁目
株式會社鈴木商店（肥料石油小麥粉等の販賣）	神田町七丁目

株式會社岐阜鐵工所　高野町七丁目
株式會社熊田機械製作所　安良田町二丁目
岐阜製氷冷藏株式會社　高野町七丁目
日下部信託株式會社　中竹屋町
岐阜不動產信託株式會社　長住町三丁目
合名會社笹五吳服店　美園町三丁目
合資會社万力吳服店　矢島町二丁目
赤堀化學工業株式會社（染料其他化學應用品ノ製作）　泉町
三榮商事株式會社（工業藥品ノ販賣）　神田町九丁目
岐阜醬油釀造株式會社　清住町二丁目
岐阜足袋株式會社　鞠屋町
玄洞源足袋株式會社　美園町一丁目

柳原商事株式會社（自轉車部分品ノ販賣）　神田町四丁目
岐阜商事信託株式會社（株式賣買）　小柳町
大正商事株式會社（株式賣買）　上竹町
濃飛倉庫株式會社　橋本町三丁目
美濃倉庫株式會社　岐阜驛前
丸久倉庫運輸株式會社　橋本町一丁目
岐阜自働車運輸株式會社　神田町十丁目
合資會社丸十運送店　神田町八丁目
合資會社丸岐運送店　神田町十丁目
合資會社角三運送店　同
西濃印刷株式會社岐阜支店　七軒町
飛驒物產株式會社岐阜支店　神田町八丁目
濃飛自働車株式會社岐阜支店　同

新聞雜誌

名稱	位置或ハ發行所
岐阜日日新聞社	今小町
濃飛日報社	今澤町
岐阜夕刊新報社	神田町一丁目
岐阜每夕新聞社	西國町
岐阜日報社	矢島町
教育新聞社	七軒町
內國通信社	美江寺町
岐阜通信社	木造町
新愛知新聞社岐阜支局	矢島町
名古屋新聞社岐阜支局	神田町七丁目
名古屋每日新聞社岐阜支局	上竹屋町
大正新聞社岐阜支局	彌生町
大阪每日新聞社岐阜通信部	扇町
大阪朝日新聞社岐阜通信部	西野町二丁目
岐阜縣教育會雜誌	岐阜縣教育會
岐阜縣農會雜誌	岐阜縣農會
昆蟲世界	名和昆蟲研究所
岐阜商報	岐阜商業會議所
藥海時報	端詰町
養蜂新報	下竹町
警察之友	七軒町

重ナル旅館

◎印ハ料理屋兼業

名稱	位置
玉井屋	今小町
住吉屋	美江寺町
濃陽館支店	岐阜驛前
見付屋本町	
加壽美館	岐阜驛前
中島屋同	
◎十八樓	湊町
一久	七軒町
清水屋	中竹屋町
山縣屋	米屋町

重ナル料理店

◎印ハ旅館兼業　△印ハ西洋料理屋

名稱	位置
◎萬松館	公園内
◎濃陽館	神田町六丁目
水琴亭	伊奈波
◎鵜飼ホテル	御室町
◎鐘秀館	長良村
港館	港町
德文	今小町
△櫻川	若宮町三丁目
松歲屋	伊奈波通一丁目
古市屋	秋津町
大濱屋	末廣町
月見屋	美殿町
花月同	
△三河亭	八ッ寺町

劇場及寄席

◎印ハ活動寫眞常設館

名稱	位置
岐阜劇場	神室町
金華劇場同	
◎美殿座	若宮町
◎衆樂館	柳ケ瀨町
旭座同	
◎電氣館	神田町四丁目
豐富座	柳ケ瀨町
有樂座	神田町四丁目

大正十年八月廿三日印刷
大正十年八月廿六日發行

不許複製

編輯兼發行所　岐阜市役所内　岐阜保勝會

印刷者　岐阜縣岐阜市七軒町十一番戸　河田貞次郎

印刷所　岐阜縣岐阜市七軒町十二番戸　西濃印刷株式會社　岐阜支店　電話長六二番　五八一番

★共

株式會社

大垣共立銀行岐阜支店

顧問 安田善次郎
頭取 安田善之助
副頭取 戸田鋭之助

岐阜市今小町
電話長二一七番
電話長五八三番

岐阜市米屋町
株式會社 岐阜貯蓄銀行
電話長二五二番

岐阜市神田町五丁目
同 上加納支店
電話六九二番

岐阜市美園町四丁目（電車停留所前）
株式會社 美園貯金銀行
電話一三〇番

岐阜縣本巢郡北方町
同 支店
電話三三番

長良川鵜飼の案内

○鵜飼は毎年 五月十一日より十月十五日まで 洪水滿月の外は月夜にても觀覽出來ます
○鵜飼觀覽時刻は毎夜變更するも凡上は十時半頃中は九時半頃下は七時半頃
○鵜飼遊船は二三人乘より五十人乘迄備置き御入數に應じ出船致します
○觀覽乘合遊船は船の都合出來得る限り出船致します
○鵜飼觀覽の外晝間金華山下長良川避暑納凉遊船は割引出船致します
○鵜飼觀覽不案内の方は岐阜驛より電車長良橋停留場にて下車し當社に御出を乞ふ
○鵜飼遊船内御辨當並に御旅館等不案内の方は懇切御案内申上ます

岐阜長良橋南詰

岐阜遊船株式會社

電話六三番

岐阜
高山 **間乘合自動車及貸自動車**

岐阜市神田町八丁目

濃飛自動車株式會社
岐阜出張所

長電話六七三番

エビス印紙袋
馬印蠶座紙
生絲文庫紙
製造發賣元
岐阜市米屋町十五番地
内外和洋紙商
紙喜商店
店主 尾藤喜平治
電話 ㊟五一一番
振替口座 東京九二一一番 大阪七九四八番 名古屋一一六九番

本店 大垣市竹島町 羅紗綿布商 牧村甚兵衛 ㊟電話一四九番
岐阜市今澤町（裁判所前）
洋服商
楠彦洋服店出張所
電話 一一二二番
振替貯金名古屋三八三六番

岐阜市神田町八丁目

加藤洋服店

電話農三百八十七番
振替貯金口座(大阪)二八一七番

羅紗
洋服
商

岐阜市矢島町二丁目

井上虎吉

電話六二一一番
東京一九四五番
名古屋三五八〇番
振替口座

羅紗
洋綿
服布
商

商號山内屋洋服店

渡部一次郎

岐阜市秋津町
電話七三〇番
振替口座大阪二四七二六番

米雜穀販賣
精米業　岐阜倉庫合資會社
倉庫業
岐阜市神田町四丁目
電話　長七四番

鮎粕漬、鮎せんべい
鮎うるか、鮎カガリ煮
守口漬其他名產品一切
發賣元
岐阜市七軒町五番地
電話五七四番
振替大阪二一六五八番
罐詰
問屋
加納太十郎商店

登録商標

本

岐阜縣特産

株式會社養本社

大紫雲英種子採取販賣專業

紫雲英栽培畫見本及試驗用種子、電話
相場表は七月下旬迄御申越次第送呈可仕候

振替口座 東京一六一一六
大阪一五六一二

專賣特許第三五一七六號
第三七四六一號

戸すべり紙

建具十二本分入一箱
定價 金參拾六錢

專賣特許第三七七五三號

雨傘早直し紙

各色飛模樣取交ぜ
二十五枚入一箱
定價 金參拾錢

◆特約店大募集

岐阜市矢島町

特許戸滑紙製造株式會社

國電話 一二四六番
振替口座 東京四五四一五番
大阪四七六二七番

絹絲網
絹綿網絲
綿絲網
麻岩繩
各種投網
霞網
各種漁具

岐阜市本町三丁目

西川製網所

店主 西川初次郎

振替口座大阪三二二九四番
振替口座名古屋五〇四七番

岐阜市今小町

旅館 玉井屋

電話 長六五番 八一四番

鵜飼見物御案内所

岐阜市川原湊町長良川畔遊船會社ヨリ西八軒目

元祖 御料理竝ニ御旅館 芭蕉翁古跡 十八樓

電話長一八番

○このあたり目に見ゆるものみな涼し　ばせを

旅館
岐阜市本町三丁目
見附屋
長電話三〇八番

旅館
岐阜市七軒町
一久
電話六三六番

旅館
御料理
岐阜市神田町六丁目
濃陽館
長電話一二〇番

御料理
岐阜驛前
濃陽館支店
長電話一一四三番

旅館
御料理
岐阜公園内
萬松館
長電話三九番

岐阜市大宮町

旅館
御料理
鵜飼案内
長良川畔
湊館
長電話六八五番

御料理
岐阜市御室町
鵜飼ホテル
長電話二二九番

旅館
岐阜市神田町八丁目
長住館
長電話二九番

陸軍並ニ縣立學校用達
和洋料理業
岐阜屋
電話五〇三番

御料理

伊奈波境内

水琴亭

電話二四番

岐阜市金寶町四丁目（徹明小學校新校舍東）

岐阜病院

電話一四一番

院長醫學士 佐々木曠

同電話一二二番（院長宅用）

副長 渡邊柳吉

電話一四一番

蜂蜜

工業用
藥食用

各種

蜂蜜は我が岐阜縣の紫雲英花より採集せしものを以て品質佳良東洋唯一の名聲あり産額亦多量なり。

蜜蠟

各種

如何に多量の御用命も即時に出荷し得る在荷豐富なり

見本呈上、養蜂營業案内申込次第贈呈

岐阜市下竹町

蜜蜂生産品直輸出入商

松原喜八商店

種蜂、蜂王養成
蜂蜜、蜜蠟生産
養蜂器具製作

卸問屋

電話 八七〇番
振替 東京 三七二一番
名古屋 二〇八七番
大阪 二二六八番

(イロハ順)

日本絹紬株式會社
日本毛織株式會社
日本絹毛紡績株式會社
片倉製絲紡績株式會社 岐阜田中製絲所
金山製絲株式會社
大日本紙絲株式會社
藤井製絲所
後藤毛織株式會社
金華紡織株式會社

岐阜市矢島町

季節向新品常ニ豐富取揃ヘ居リ候

萬力吳服店

長電話三五番

岐阜市靱屋町

桔梗屋吳服店

長電話二一番

岐阜土産

御菓子司

店舗の装置を新にし御立寄を待ちつゝあり

岐阜市湊町（鵜飼遊船乗降場前）

華月堂

玉井屋菓子舗

電話二七六番
振替口座大阪二六五〇〇番

製品概目

岐阜團扇　岐阜提灯
岐阜行燈　絹綿刺繍日傘
紙繪日傘　紙ナプキン
ランプ笠　紙類製品各種

合資會社

後藤商店

岐阜市白木町

長電話一三四番

岐阜物産

紙製品
漬物類商

正泉善七商店

岐阜市神田町一丁目

電話二一五番
振替口座大阪二六三二二番

營業種目

貸自動車
關太田間
美濃町八幡間
乘合自動車
自動車附屬品及
自動車ノ販賣
自動車及自動
自轉車等ノ修繕

岐阜驛前

岐阜自動車運輸株式會社

電話
本社 岐阜 一一六〇番
關出張所 一二〇番
美濃町出張所 美濃 一〇六五番
八幡出張所 八幡 一二五番

醸造本舗大和屋號

岐阜銘酒
籌火味淋

大洞彌兵衛東店
岐阜市常磐町 長電話一二五番

美術銅器
和洋金物商

大洞彌兵衛西店
長電話一二五番

輸出綿織物製造

岐阜市長住町

岐阜織物株式會社

電話三九二番

朝日瓦斯
綿縮類 製造元

岐阜市長旗町

熊田織物工場

場主 熊田乙吉
長電話九〇七番

餅菓子
東京堂本店
電話七三六番
御料理仕出し
東京堂食堂部
電話一〇八〇番

御澤椿本舗
岐阜市白木町
白木角之亟商店
電話八二一番

國產諸紙
蠶卵臺紙 問屋
岐阜市小熊町
鈴木安兵衛本店
長電話二一六八番
振替大阪一〇三七三番
振替東京二七七九〇番
電信略號（スヤ）
支店 市内神田町三丁目

岐阜市今川町二丁目

名古屋電燈株式會社岐阜支店

電話 二七一番 二七二番 二七三番

陸軍用達

岐阜市元町二丁目

海産問屋 芳村力次郎商店

電話 三二六番
電信略號（ヨ）

和洋酒
食料品
罐詰器
洋食
牛肉販賣

キリンビール
赤玉ポートワイン特約店

岐阜市神田町一丁目

いろは商店

電話 七二五番
振替東京三〇七二三

岐阜名産
本元 松風
岐阜市笹土居町
長崎屋本舗

岐阜名産 金蝶饅頭
岐阜市泉町
金蝶堂
電話一〇九〇番

陸軍諸官衙學校會社銀行等御用達
岐阜市笹土居町七番地
食パン製造
洋酒食料品
中央軒合資會社
取次 電話八二五番

簡易食堂？ 奇樂堂？ 店内ニ設置
○御散歩ノ途是非御立寄ノ程御願ヒ致シマス

茶

名物 柿羊羹

岐阜市今小町
林屋茶舗
電話一二八番
振替東京四六五〇番

合名會社 笹五吳服店

岐阜市美園町
電話五十一番
振替口座大阪一四三一九番

株式會社 明治銀行

○九月下旬開業

岐阜支店新設

○現在吉田倉庫銀行支店ヲ
譲受ケ同所ニ設置可仕候

美濃養老藥局

御勅使印

養老丸

日本家

玉泉堂藥

電話二〇番
振替東京八七一五番

明治十年創立

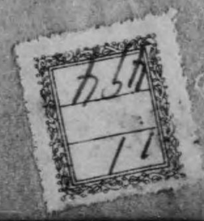
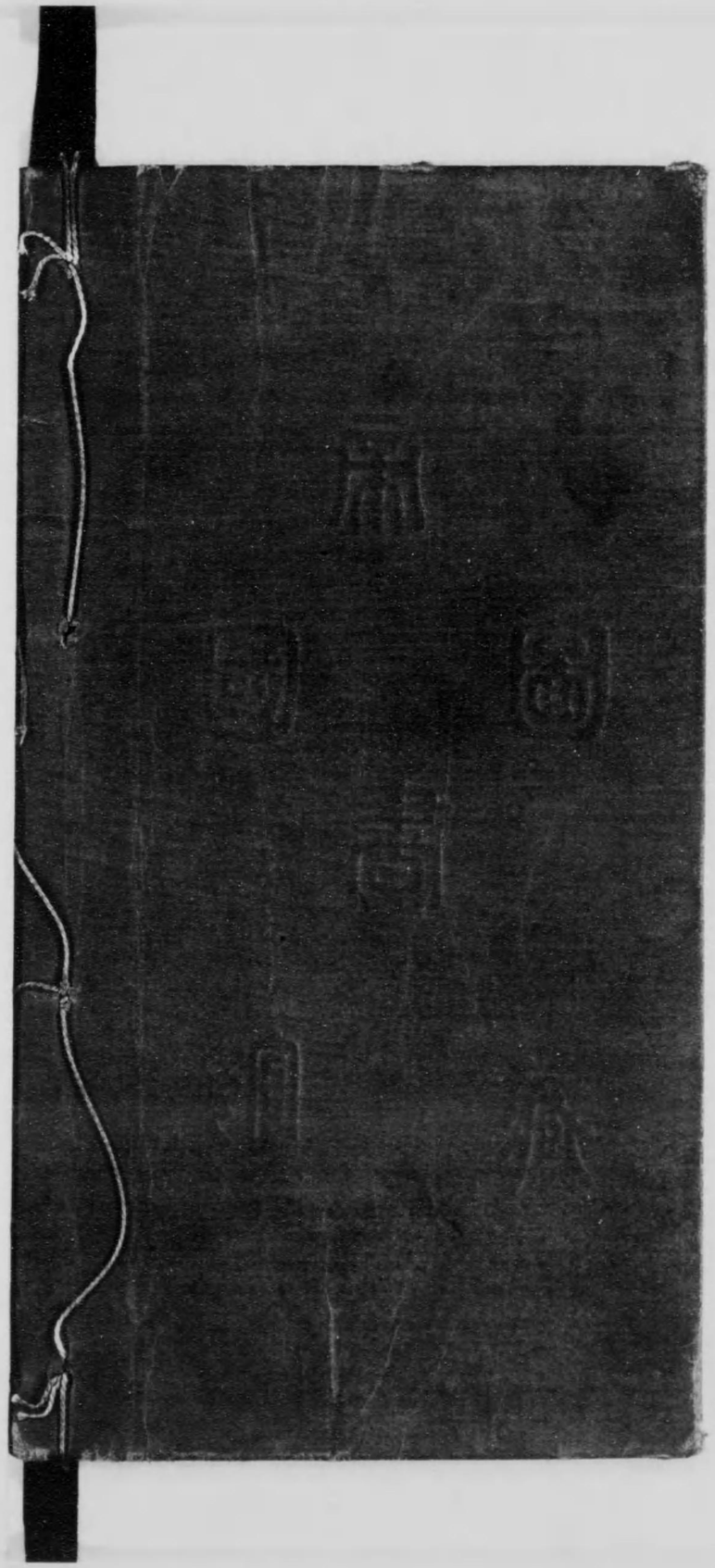
銀

岐阜市中竹屋町
株式會社 十六銀行

電話
長二一六番
二三七番
三五五番
八〇四番

支店

富茂登 小熊 上加納 西野町 長良 加納
長森 笠松 北方 犬塚 西黒野 大垣
關 美濃町 太田 多治見 中津 名古屋


B.5A
11

終